

8/7(月)17:00-18:00 「2023年度1Q決算電話会議」説明要旨

岡田 CFO プレゼン

皆さま、本日はお忙しいところ、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
グループ CFO の岡田でございます。

- 本日、当社は、「第1四半期決算」を公表しておりますので、その内容等につきまして、私からご説明させていただきます。
- 早速ですが、資料の3ページをお開きください。

【Key messages】

- 本日お伝えしたいポイントは、大きく3点となります。
- 1点目は、「2023年度の利益計画“6,700億円”に向けた基調は順調」ということです。
- 第1四半期は、「国内外での自然災害の影響」や「北米におけるキャピタルロスの発生」がありましたが、いずれも年初予算の範囲内です。
また、「円安進行に伴い、国内で外貨建て支払備金の積増しや、為替デリバティブの評価損を計上」していますが、これは通期で見れば、海外の増益効果とオフセットされることとなります。
- その上で、「着実に進捗している国内火災保険の収益改善」や「新種保険の拡大」、「計画を上回る、海外保険引受の好調」や「インカム収益の増加」等を踏まえ、
「2023年度の利益計画 6,700億円に向けた基調は順調」と、申し上げてよろしいかと思えます。
- 続いて2点目ですが、お客様、そして資本市場の皆様にも、大変なご迷惑とご心配をお掛けしております、「東京海上日動における、一連のニュースリリース」に関してです。
- まず、「保険料の調整行為」について、こちらは6/20にリリースしておりますが、当社は本事案を重く受け止め、複数の社外弁護士を起用した特別調査委員会を設置し、同種事案の有無に関する調査を継続しているところです。
- 先週金曜日にリリースしました通り、金融庁より報告徴求命令を受領しましたが、内容としては、まさに当社が実施中の同種事案の調査についての報告命令となります。当該命令に対しても真摯に対応してまいります。
本件に関しては、原因分析と、それに基づくガバナンスや、社員の基本行動の徹底等に関する再発防止策を順次策定、実行しておりますが、皆様にご安心いただけるよう、引き続き取り組んでまいります。
- 次に、「ビッグモーター社による保険金不正請求等」ですが、8/1のリリース通り、当社は、お客様の被害回復を最優先事項と位置づけておりまして、被害に遭われた、あるいは可能性のあるお客様にコンタクトを開始しております。当社といたしましては、ビッ

グモーター社の「全数調査の完了」まで待たずに、お客様の「走行安全性の確認のサポート」等、真摯に、プロアクティブに、各種対応を進めてまいります。

- 3点目ですが、このような事案はありましたが、一方で、お客様のニーズを踏まえて、適切な保険カバーを、適切な条件と料率でご提供することは、当社の「本分」であります。従いまして、「国内火災保険の収益改善」に向けた取組みを弱めることはなく、着実に実行していくことは申し添えさせていただきたいと思っております。
- その中で、7月以降国内自然災害は、年初計画に対し、少々ハイペースに発生しておりますが、これを除けば、足元におきましても、「国内外いずれについても業績の基調は順調」です。
その上で、自然災害の本格シーズン前であること等も総合的に勘案いたしまして、現時点では、修正純利益の通期予想 **6,700** 億円を見直しません。
- そして、年初に公表いたしました配当や自己株取得などの株主還元につきましても、現時点で見直すことは考えておりません。
- それでは、特に1点目について、もう少しだけ詳細にご説明していきたいと思っております。
4ページをご覧ください。

【トップライン】

- 先ず、トップラインです。
- 第1四半期の実績は、「正味収入保険料が**+9.9%**」、「生命保険料が**+0.2%**」の増収となっています。
- 「除く為替」では、「正味収入保険料」は、国内外いずれも好調で、「**+6.7%**」の増収です。他方、「生命保険料」は「**▲4.1%**」の減収となっていますが、これはあんしん生命において事業保険の解約が想定通り進んでいるためであり、総じて見れば、「基調は順調」と言えるかと思っております。
- 次に、修正純利益を構成します大所(おおどころ)につきまして、「第1四半期の評価」をご説明しますので、5ページをご覧ください。

【修正純利益・事業別利益の1Q実績の評価】

- グループ全体の「修正純利益は **1,645** 億円」、「通期予想対比の進捗率は **25%**」となりました。これは「過去 **5** 年平均の進捗率 **36%**」との対比では低位となっていますが、この理由は冒頭ご説明の通りでありまして、「基調は順調である」と考えております。
- 各事業の内訳を見えます。
- 先ず国内の「東京海上日動」ですが、利益に影響を与えているのが、「円安」と「自然災害」となりますが、こちらは既にご説明の通りです。
そして、円安につきましては、確かに東京海上日動の利益を押し下げますが、グループ全体で見れば、資料の **27** ページに記載の通り、「海外子会社の円換算利益の増加」がオフセットしますので、むしろ通期では、**1** 円円安につき**+4** 億円の増益効果となります。

- そして、これらの影響を除いた、ある意味「実力値」を見ますと、進捗率は **40%** であり、過去 5 年平均に対してもオンパースです。つまり、利益ドライバーであります「国内火災保険の収益改善」や「新種保険の拡大」の基調は順調であると考えております。
- また、「海外保険」ですが、主要拠点の第 1 四半期実績は、現地計画対比で、「+約 20 億円」上振れています。
カラーを申し上げますと、先ず「保険引受利益」は、DFG やブラジル TMSR を中心に好調で、現地計画対比で、「+約 70 億円」上振れています。
次に、「資産運用」ですが、当社は 5 月に、「通期のキャピタルロスを“▲200 億円強”見込んでいる」と、申し上げました。これに対し、第 1 四半期のキャピタルロスは「▲124 億円」と、やや上振れています。他方、インカム収益も計画対比で上振れておりますので、トータルでは、結果として、年初計画通りとなっております。
そうすると、差分は「▲約 50 億円」となりますが、これは、ドル・ポンドの外貨間為替の変動による欧州の損失となります。
- そして、主要拠点における、「上期」の速報数字ですが、現地計画対比で、「+約 130 億円」の上振れと、第 1 四半期からの好調を更に加速させています。
このカラーも第 1 四半期と変わることはありませんが、この外法(そとのり)で、第 2 四半期に、「海外ランオフ受再契約に係るリザーブの積み増し」として、「▲約 110 億円」の損失を予定しています。
- これは、当社が 2019 年 3 月に closing しました「再保険子会社 TMR の売却」時に、Buyer と締結しました、「ADC(Adverse Development Cover)における、リザーブの積み増し」でありまして、その背景は、ソーシャルインフレーションにあります。
そして、足元のリザーブは適正だと認識しておりますが、万が一、将来的に更なるリザーブに積み増しが必要となる場合にも、当該 ADC には上限がありますので、この先の最大追加損失額は 100M 程度となります。
- 当該損失は一過性のものですし、海外全体で見ればこれを補って更に好調であり、P1 に記載の通り、6 月末時点での半期末速報では海外全体では本件損失反映後でも計画対比オンパースで進捗しております。

【Closing】

- 最後に纏めますと、今後本格到来する自然災害の状況や、運用環境の状況等は、よく watch していく必要はありますが、当社業績の「基調は順調」だと考えております。
- 当社と致しましては、「グローバルなリスク分散」や「グローバルなグループ一体経営」といった強みを活かしながら、経営戦略を着実に実行することで、「世界トップクラスの EPS Growth」と、「世界トップクラスの ROE への向上」を夫々実現し、資本市場の皆さまのご期待に応えていきたい、この様に考えております。
- そして、保険事業にとりまして、お客様からの「信頼」が、全てのビジネスの源泉でありますことは、言うまでもありません。当社は、一連の事案に関しまして、重く受け止めておりますし、東京海上日動による各種取組みが着実に履行される様、ホールディングスとしても、しっかりと監督、指導して参ります。

引続きのご支援をよろしくお願いいたします。

- 私からのご説明は以上です。

以 上